



和歌山県から得られた南方性テンジクダイ科魚類 2 種の記録

吉田奈央¹・大西 遼²

Author & Article Info

¹ 京都大学農学部地域環境工学科 (京都市)
yoshida.nao.82n@st.kyoto-u.ac.jp (corresponding author)
² 串本海中公園センター (東牟婁郡串本町)
onishi@kushimoto.co.jp

Received 16 May 2025
Revised 22 May 2025
Accepted 22 May 2025
Published 22 May 2025
DOI 10.34583/ichthy.55.0_63

Nao Yoshida and Ryo Onishi. 2025. Records of two species of apogonid fishes based on specimens obtained from Wakayama Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 55: 63–68.

Abstract

Two species of apogonid fishes, viz., one specimen of *Apogon crassiceps* Garman, 1903 [15.1 mm standard length (SL)] and six specimens of *Apogonichthys ocellatus* (Weber, 1913) (18.3–30.8 mm SL), were collected from Wakayama Prefecture, Japan. These specimens represent the first records of the species from the prefecture and the second records from Honshu, Japan.

和歌山県南部の沿岸域は沖合を流れる黒潮の影響を受けるため、多くの南方性魚類が加入および定着することが知られている (荒賀・田名瀬, 1966; 桑村, 1980; 福田・御前, 1992a, b; 池田・中坊, 2015; 福田・小寺, 2019; 大西, 2024). 特に本県南端に位置する串本町の魚類相は、同じく黒潮の影響を強く受ける高知県柏島, 屋久島, および八丈島に類似することが示されており (Senou et al., 2006), 近年においても同海域からは南方性魚類の出現が相次いで確認されている (例えば, 松尾・國島, 2021; 堺・國島, 2023; 大西・吉田, 2024).

テンジクダイ科魚類は日本国内から 26 属 107 種が知られており (本村, 2025), そのうち和歌山県からは 14 属 47 種が記録されている (林・新井, 1980; 御前, 1990a, b; 山本・古見, 2005; 林, 2013; 池田・中坊, 2015; Tose et al., 2017; 松沼, 2020; 吉田ほか, 2020; 大西・吉田, 2024; 大西, 2024).

2024 年に和歌山県串本町において 1 個体のアカフジテンジクダイ *Apogon crassiceps* Garman, 1903, また 2011 年

から 2024 年にかけて本県すさみ町ならびに串本町から 6 個体のマトシボリ *Apogonichthys ocellatus* (Weber, 1913) が得られた. これらの標本は和歌山県における初記録, ならびに本州沿岸における 2 例目の記録となるため, ここに報告する.

材料と方法

計数・計測方法は Fraser (2005) に従い, 各種の学名は馬淵ほか (2015) と本村 (2025) に従った. 標本の作製, 写真撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 標準体長 (standard length) は体長または SL と略記した. 計測は実体顕微鏡とデジタルノギスを用いて 0.01 mm 単位まで行い, 小数第 2 位を四捨五入した. 計測値は体長に対する百分率 (%) で示した. なお, アカフジテンジクダイ (FAKU 211843) については標準体長が小さく, 鰓耙数の確認が困難であったため計数を省略した. 生鮮時の色彩は固定前に撮影されたカラー写真 (Figs. 1, 2A–D) に基づいて記載した. 本報告で用いた標本は京都大学総合博物館 (FAKU) と和歌山県立自然博物館 (WMNH) に登録・収蔵されている.

Apogon crassiceps Garman, 1903

アカフジテンジクダイ

(Fig. 1; Table 1)

標本 FAKU 211843, 15.1 mm SL, 和歌山県東牟婁郡串本町潮岬浪ノ浦, 水深 0.2 m, 手網, 2024 年 12 月 14 日, 吉田奈央.

記載 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した. 体は側扁し, やや細長い. 尾柄は長く, 後方に向かうにつれてわずかに細くなる. 体高は背鰭基部付近で最大となる. 口裂は大きく端位で, 吻はやや尖る. 上顎先端は下顎先端よりわずかに前方に突出する. 上顎後端は眼の後端の直下よりやや前方に位置する. 鼻孔は 2 対で皮弁を持たない. 前鼻孔と後鼻孔は同大で近接しない. 側線は鰓蓋上部から尾柄中央部の臀鰭基底後端より後方まで緩や

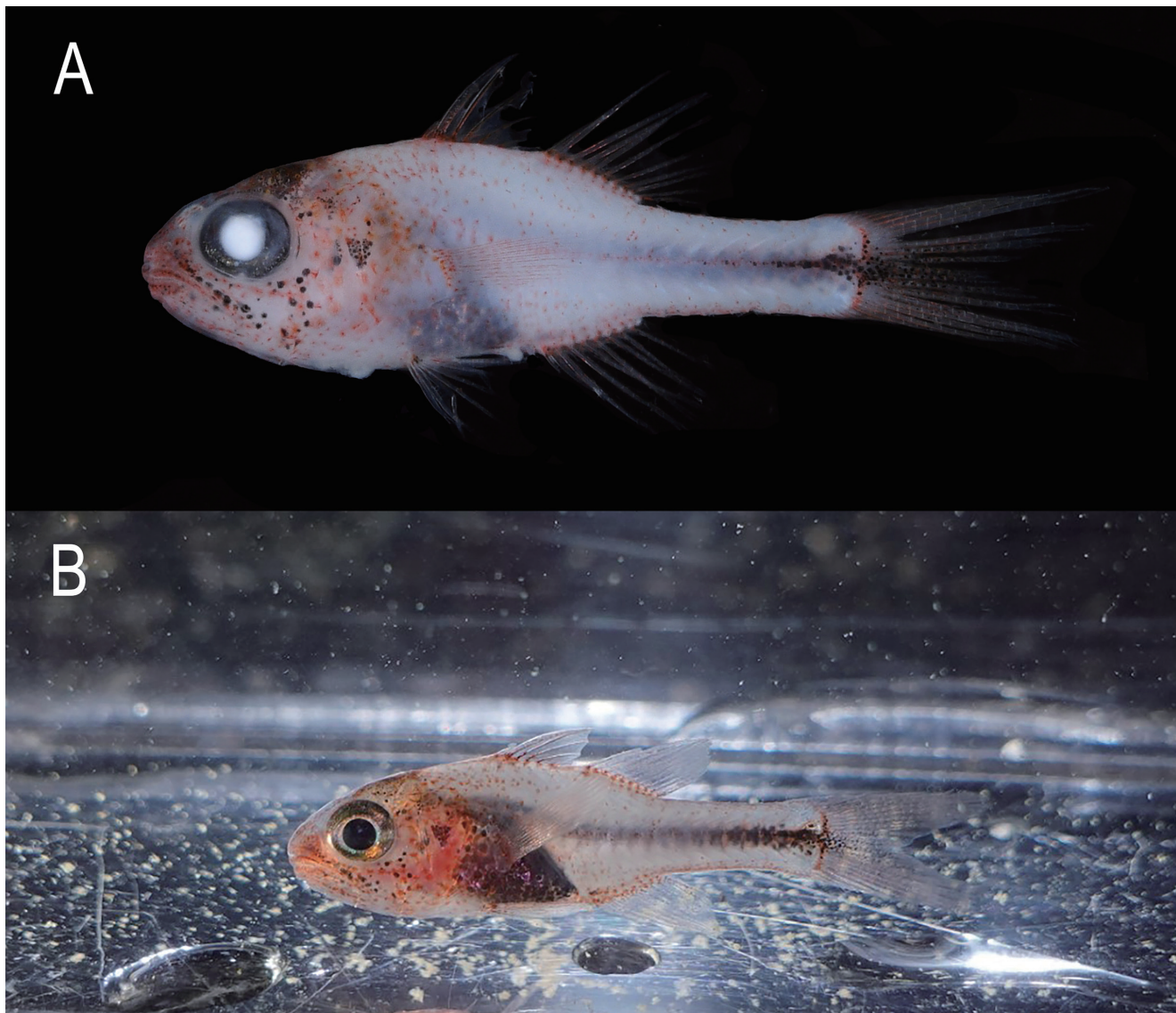


Fig. 1. Fresh specimens (A) and live individual (B) of *Apogon crassiceps* (FAKU 211843, 15.1 mm SL) from Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan.

かに上向きに膨らんだ弧状を描いたのち、尾柄中央部を頭尾軸と平行にはしり尾鰭基底に達する。第1背鰭起部は腹鰭起部直上と胸鰭起部直上の間に位置し、背鰭の棘は第1棘が最も短く、第2棘が最長で他の棘に比べ太い。第2背鰭起部は臀鰭起部直上のやや後方に位置する。胸鰭は後方に長く伸び、後端は背鰭第3軟条基部の直下を越える。腹鰭起部は主鰓蓋骨後端の直下に位置する。臀鰭起部は肛門の直後に位置し、臀鰭基底後端は第2背鰭基底後端の直下に位置する。尾鰭は二分型で浅く湾入し、後端は上葉下葉ともわずかに丸みを帯びる。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 頭部は全体的に赤みを帯びる。主上顎骨上には黒色素胞が分布するが後端付近には分布しない。眼の下端後方から主上顎骨後方にかけて黒色素胞が分布する。眼の後端直上の頭頂部は黒ずむ。眼の後方には三角形の黒色斑がある。生時は頭部を除いた体側は主に半透明(死後すみやかに白く濁る)で、赤色素胞が散在する。鰓蓋後端から体側中央を通り尾柄部まで黒色

線があり、その黒色線上に沿って赤色素胞が並ぶ。尾柄の下縁に沿って赤色素胞が密に分布する。尾柄部中央部の側線上に黒色素胞が分布し、尾鰭基底付近では二等辺三角形に分布する。各鰭の鰭条の基部は赤色。各鰭膜は透明。

分布 本種は西太平洋に広く分布しており (Yoshida et al., 2010; 林, 2013; 吉田, 2013, 2014a), 日本国内では神奈川県城ヶ島, 高知県, 宮崎県, 鹿児島県本土, 大隅諸島 (硫黄島・黒島・種子島・屋久島・口永良部島), 奄美群島 (喜界島・奄美大島・徳之島・沖永良部島・与論島), および沖縄諸島 (沖縄島・瀬底島・渡嘉敷島・久米島) から記録されている (Yoshida et al., 2010; 林, 2013; 吉田, 2013, 2014a, 2018; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; Motomura and Uehara, 2020; 田中ほか, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; Jeong and Motomura, 2021; 吉郷, 2021; 工藤ほか, 2022; 出羽ほか, 2022; Motomura, 2023; 阿部ほか, 2024; 前田ほか, 2024; 橘ほか, 2024; 本村, 2025)。本研究により新たに和歌山県からも記録された。

備考 記載標本は側線が1本であること、腹縁に発光腺をもたないこと、尾鰭前鰭条の最長軟条が分節すること、背鰭軟条数が9であること、臀鰭軟条数が8であること、前鰓蓋骨腹縁の皮弁が骨化しないこと、前鰓蓋骨後縁下方の皮弁が前鰓蓋骨後縁直下を越えないこと、前鰓蓋骨後縁下方の皮弁が前鰓蓋骨後縁直下を越えないことが Mabuchi et al. (2014) の示したコミナトテンジクダイ属の特徴に一致した。また、前鰓蓋骨後縁が弱い鋸歯状であること、第1背鰭第2棘は後方に倒しても第2背鰭基底の中央に達しないこと、体に顕著な模様がないこと、側線上方横列鱗数が1.5、胸鰭条数が13、尾柄周鱗数が12であること、尾柄部から尾鰭にかけて黒色素胞が二等辺三角形形状に分布することが Yoshida et al. (2010), 林(2013), および吉田(2014a) の示したアカフジテンジクダイ *Apogon crassiceps* の特徴に一致したことから、本種に同定された。

本種の分布は「分布」の項に示したとおりであり、今回得られた標本は本種の和歌山県からの初記録であり、本州沿岸からは2例目の記録となる。

Table 1. Counts and measurements of *Apogon crassiceps*.

Reg. No.	FAKU 211843
Standard length (SL, mm)	15.1
Counts	
Dorsal-fin rays	VI-I, 9
Anal-fin rays	II, 8
Pectoral-fin rays	13
Pelvic-fin rays	I, 5
Principal caudal-fin rays	15
Pored lateral-line scales	broken
Transverse scale rows	1.5
Median predorsal scales	broken
Circumpeduncular scales	12
Developed gill rakers	—
Total gill rakers	—
Measurement (% of SL)	
Body depth	31.8
Head length	41.0
Eye diameter	9.0
Snout length	13.5
Interorbital width	6.0
Upper-jaw length	22.5
Caudal-peduncle depth	12.5
Caudal-peduncle length	27.4
1st dorsal-fin spine length	4.4
2nd dorsal-fin spine length	18.8
3rd dorsal-fin spine length	15.9
4th dorsal-fin spine length	11.4
5th dorsal-fin spine length	9.2
6th dorsal-fin spine length	5.7
1st spine length of 2nd dorsal fin	10.6
1st anal-fin spine length	4.4
2nd anal-fin spine length	11.9
Pectoral-fin length	26.2
Longest pelvic-fin soft ray length	20.5

Apogonichthys ocellatus (Weber, 1913)

マトシボリ

(Fig. 2; Table 2)

標本 6標本：FAKU 21183, 23.7 mm SL, FAKU 211841, 18.6 mm SL, FAKU 211842, 30.8 mm SL, 和歌山県東牟婁郡串本町潮岬浪ノ浦, 水深0.2 m, 2024年12月14日, 手網, 田邊恵一・北尾圭梧・吉田奈央; WMNH-PIS8102, 28.2 mm SL, 和歌山県西牟婁郡すさみ町江須崎, 水深0.3–0.4 m, 2011年11月26日, 手網, 平嶋健太郎; WMNH-PIS9408, 24.4 mm SL, 和歌山県西牟婁郡すさみ町江須崎, 水深0.3–0.4 m, 2014年12月10日, 手網, 平嶋健太郎; WMNH-PIS14226, 18.3 mm SL, 和歌山県東牟婁郡串本町潮岬浪ノ浦, 水深0.1 m, 2024年12月18日, 手網, 大西 遼.

記載 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 2 に示した。体は側扁し、やや長い楕円形。尾柄は太い。口は端位で主上顎骨後端は眼の後端を越えない。鼻孔は2対で前鼻孔と後鼻孔は近接せず、前鼻孔には前方に突出する管状の皮弁がある。後鼻孔は孔状で皮弁を欠く。側線は鰓蓋上部から尾柄部前方の中央にかけて緩やかに上向きに弧状を描いたのち、体軸に平行にはしり、尾鰭基底に達する。第1背鰭起部は鰓蓋後端直上のわずか前方に位置し、第1背鰭の棘は第1棘が最も短く、第4棘が最長で、第7棘にかけて短くなる。第2背鰭起部は肛門直上のわずか前方に位置し、第2背鰭の外縁は丸みを帯びる。胸鰭起部は第1背鰭第2棘基部直下に位置し、胸鰭後縁は丸みを帯びる。胸鰭後端は FAKU 211842 では第2背鰭第4軟条基部直下、FAKU 211833 と WMNH-PIS8102 では第5軟条基部直下、FAKU 211841 と WMNH-PIS9408 では第6軟条基部直下、WMNH-PIS14226 では第7軟条基部直下にまで達する。腹鰭起部は第1背鰭起部直下より前方に位置する。臀鰭起部は肛門の直後に位置し、臀鰭基底後端は第2背鰭基底後端の直下よりわずかに後方に位置する。臀鰭の外縁は丸みを帯びる。尾鰭は FAKU 211842, WMNH-PIS8102, WMNH-PIS9408, および WMNH-PIS14226 では切損していたが、その他の個体では丸みを帯びる。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 2A–D) — 体全体は黒みを帯びた茶色で、所々やや黄色みを帯びた薄橙色を呈する。眼から放射状に伸びる4本の黒褐色斜線があり、眼から斜め下方に伸びる1本は太く明瞭。第1背鰭は黒みを帯びた茶色で、第1背鰭第3棘の鰭膜から第7棘の鰭膜にかけて黄色く縁取られた眼径大の1黒色斑があり、その中心は紺色みを呈する。第2背鰭、臀鰭、および尾鰭は黒みを帯びた茶色で、後端は白みを帯びた透明である。胸鰭は透明で軟条部には黒みを帯びた茶色素胞が分布する。腹鰭は黒みを帯びた茶色で小黄色斑が密在する。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布しており (吉

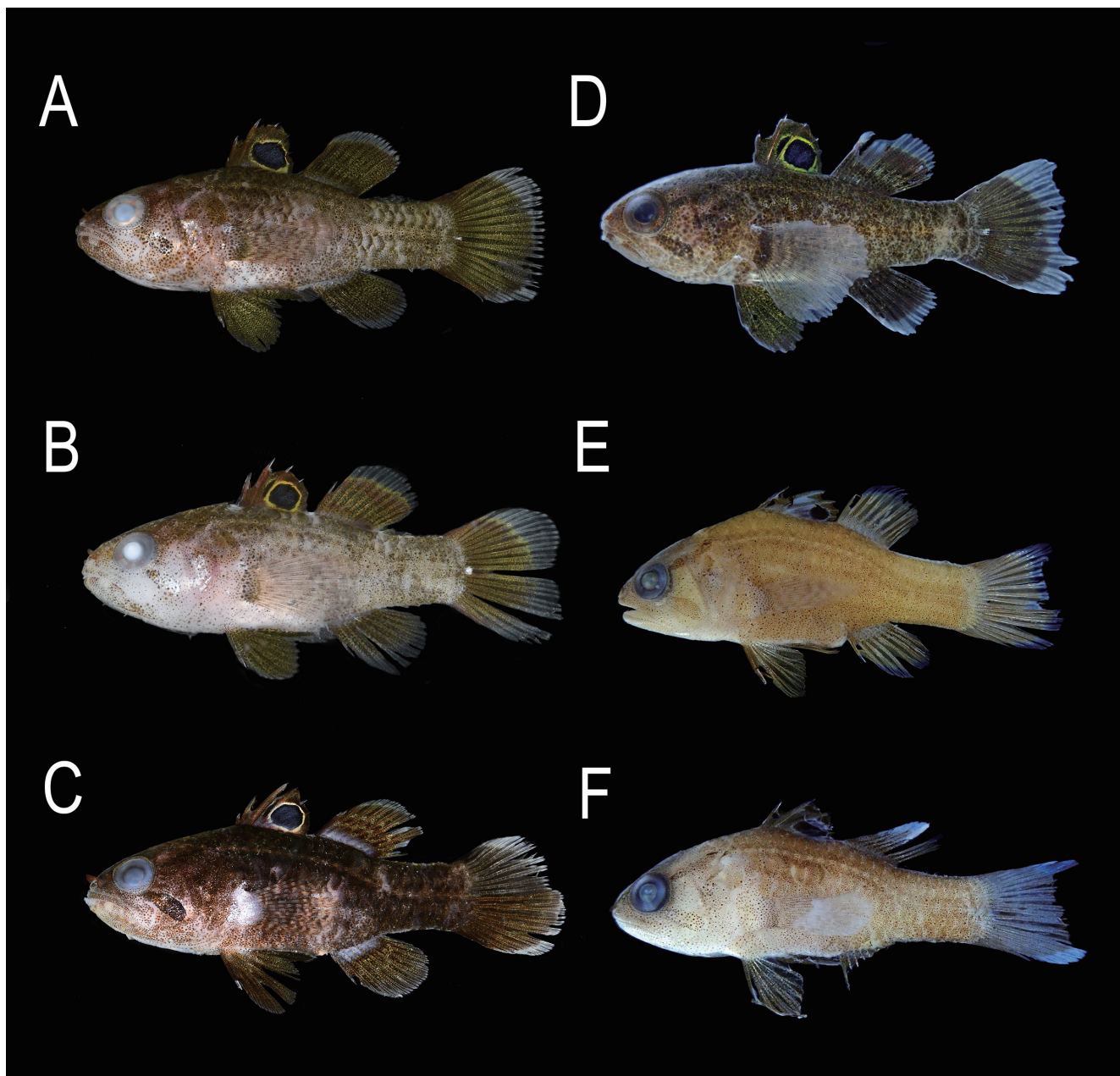


Fig. 2. Fresh specimens (A: FAKU 211833, 23.7 mm SL; B: FAKU 211841, 18.6 mm SL; C: FAKU 211842, 30.8 mm SL; D: WMNH-PIS8102, 28.2 mm SL) and preserved specimens (E: WMNH-PIS9408, 24.4 mm SL; F: WMNH-PIS14226, 18.3 mm SL) of *Apogonichthys ocellatus* from Wakayama Prefecture, Japan.

田, 2014b), 日本国内では伊豆諸島 (八丈島), 静岡県, 宮崎県, 大隅諸島 (黒島), 奄美群島 (奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島), 沖縄諸島 (沖縄島), 慶良間諸島 (渡嘉敷島), および八重山諸島 (与那国島) から記録されている (Senou et al., 2002; 渡井ほか, 2009; 林, 2013; 吉田, 2014b; Koeda et al., 2016; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; Motomura and Uehara, 2020; 吉郷, 2021; 出羽ほか, 2022; 本田ほか, 2024; 中村ほか, 2024). 本研究により新たに和歌山県からも記録された.

備考 記載標本は体に孔器列がないこと, 腹縁に発光腺をもたないこと, 尾鰭前鰭条の最長軟条が分節すること, 前鰓蓋骨縁が平滑であること, 側線が完全に尾柄まで達すること, 第1背鰭棘数が7で1黒色斑があること, 臀鰭軟

条数が8であることなどの特徴が林 (2013) や吉田 (2014b) の示したマトシボリ *Apogonichthys ocellatus* の特徴に一致したことから, 本種に同定された. ただし, FAKU 211841 と WMNH-PIS8102 は林 (2013) や吉田 (2014b) の計数値と比較して, 胸鰭条数が17 (通常16) であることが一致しなかった. しかし, 既存値との差が1条数のみであることや, その他の形質はマトシボリの特徴と一致していたことから, 本研究ではこの差異を種内変異の範囲内として判断した.

本種の分布は「分布」の項に示したとおりであり, 今回得られた標本は本種の和歌山県からの初記録であり, 本州沿岸からは2例目の記録となる. なお, 2025年2月から3月にかけて本県串本町浪ノ浦の磯で夜間の干潮時に計

4回の採集調査を行ったが、いずれの調査でも本種は採集されなかった。このことから本県沿岸で本種は越冬していない可能性が高く、今回得られた個体は南方域からの無効分散であると考えられる。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、京都府立大学生命環境学部農学生命科学科の田邊恵一氏には採集に御協力いただいた。京都大学大学院理学研究科の北尾圭梧氏には採集、標本の作製・撮影に御協力いただいた。京都大学総合博物館の松沼瑞樹氏には標本の作製・撮影・登録に御協力いただいた。和歌山県立自然博物館の平嶋健太郎氏には標本の登録と借用に御協力いただいた。また、匿名の査読者とIchthy 編集委員の吉田朋弘氏には原稿に対して有益な助言をいただいた。以上の方々に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 阿部健志郎・清和凌河・坂井陽一・古橋龍星・本村浩之. 2024. 口永良部島から得られた南限更新記録2種を含む魚類57種の記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 45: 1–14.
- 荒賀忠一・田名瀬英朋. 1966. 和歌山県の浅海魚類, pp. 81–95. 日本自然保護協会(編)日本自然保護協会調査報告 第27号. 和歌山県海中公園学術調査報告. 日本自然保護協会, 東京.
- 出羽優風・望月健太郎・松岡 翠・中村潤平・石原祥太郎・橋本慎太郎・佐藤智水・畠中柚菜・本村浩之. 2022. 大隅諸島黒島から得られた初記録の魚類86種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 27: 15–31.
- Fraser, T. H. 2005. A review of the species in the *Apogon fasciatus* group with a description of a new species of cardinalfish from the Indo-West Pacific (Perciformes: Apogonidae). Zootaxa, 924: 1–30.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 14: 1–73.
- 福田照雄・小寺昌彦. 2019. 海中展望塔に集まる魚 40年間のまとめ. 串本海中公園マリンパビリオン, 8: 1–14.
- 福田照雄・御前 洋. 1992a. 串本海中公園センターで記録された魚類一覧 (1). 串本海中公園マリンパビリオン, 21: 26–29.
- 福田照雄・御前 洋. 1992b. 串本海中公園センターで記録された魚類一覧 (2). 串本海中公園マリンパビリオン, 21: 32–33.
- 林 公義. 2013. テンジクダイ科, pp. 826–864, 1979–1986. 中坊徹次(編)日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.

Table 2. Counts and measurements of *Apogonichthys ocellatus*.

Reg. No.	FAKU 211833	FAKU 211841	FAKU 211842	WMNH-PIS 8102	WMNH-PIS 9408	WMNH-PIS 14226
Standard length (SL, mm)	23.7	18.6	30.8	28.2	24.4	18.3
Counts						
Dorsal-fin rays	VII-I, 9	VII-I, 9	VII-I, 9	VII-I, 9	VII-I, 9	VII-I, 9
Anal-fin rays	II, 8	II, 8	II, 8	II, 8	II, 8	II, 8
Pectoral-fin rays	16	17	16	16	16	16
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5
Principal caudal-fin rays	16	17	17	16	17	17
Pored lateral-line scales	24	23	23	24	23	23
Transverse scale rows	2	2	2	2	2	2
Median predorsal scales	4	4	4	4	4	4
Circumpeduncular scales	12	12	12	12	12	12
Developed gill rakers	1 + 6 = 7	1 + 6 = 7	1 + 6 = 7	1 + 5 = 6	1 + 6 = 7	1 + 6 = 7
Total gill rakers	2 + 13 = 15	2 + 13 = 15	2 + 12 = 14	2 + 12 = 14	2 + 13 = 15	2 + 13 = 15
Measurement (% of SL)						
Body depth	33.1	34.4	35.8	35.1	34.0	31.1
Head length	39.4	38.4	41.3	42.2	41.0	45.4
Eye diameter	12.2	13.4	12.2	13.1	11.9	12.0
Snout length	7.8	7.8	7.7	6.7	6.6	7.1
Interorbital width	7.9	7.1	7.6	6.0	6.6	9.3
Upper-jaw length	19.8	22.1	20.8	20.6	20.1	19.1
Caudal-peduncle depth	16.1	16.4	17.2	17.4	16.4	15.8
Caudal-peduncle length	26.0	24.0	23.7	21.6	20.9	24.0
1st dorsal-fin spine length	3.5	3.3	3.9	3.2	3.3	2.7
2nd dorsal-fin spine length	9.3	11.0	10.4	11.3	9.0	9.8
3rd dorsal-fin spine length	15.4	15.8	17.2	17.4	14.3	15.8
4th dorsal-fin spine length	16.8	18.2	18.3	18.4	15.6	16.4
5th dorsal-fin spine length	16.0	14.0	16.7	17.0	broken	13.1
6th dorsal-fin spine length	11.3	11.8	10.3	11.0	broken	13.7
7th dorsal-fin spine length	6.1	6.6	5.1	6.7	5.3	6.0
1st spine length of 2nd dorsal fin	10.4	9.7	10.8	10.6	9.0	10.4
1st anal-fin spine length	3.9	3.8	3.2	2.5	broken	4.9
2nd anal-fin spine length	12.8	11.8	12.8	9.9	broken	14.2
Pectoral-fin length	30.9	32.9	30.5	28.0	27.5	30.6
Longest pelvic-fin soft ray length	24.5	24.7	24.2	21.6	21.3	21.9

- 林 公義・新井良一. 1980. 日本産テンジクダイ科魚類相の検討 — 紀伊半島における特性 —. 国立科学博物館専報, 13: 83–95.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録 (改訂). 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 53: 127–218.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. xxii + 597 pp.
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 16: 1–116.
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. Kagoshima University Museum, Kagoshima. v + 120 pp.
- 工藤孝浩・山田和彦・三井翔太・門田高太・瀬能 宏. 2022. 三浦半島南西岸魚類目録. 神奈川自然誌資料, 43: 97–142.
- 桑村哲生. 1980. 南紀白浜の沿岸岩礁地帯における魚類の出現季節. 魚類学雑誌, 27: 243–248.
- Mabuchi, K., T. H. Fraser, H. Y. Song, Y. Azuma and M. Nishida. 2014. Revision of the systematics of the cardinalfishes (Percomorpha: Apogonidae) based on molecular analyses and comparative reevaluation of morphological characters. Zootaxa, 3846: 151–203.
- 馬淵浩司・林 公義・T. H. Fraser. 2015. テンジクダイ科の新分類体系にもとづく亜科・族・属の標準和名の提唱. 魚類学雑誌, 62: 29–49.
- 前田知範・久木田直斗・是枝伶旺・本村浩之. 2024. 鹿児島県と宮崎県から得られた九州沿岸初記録のアカフジテンジクダイ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 45: 25–30.
- 松沼瑞樹. 2020. 和歌山県串本町からのソウリュウスカシテンジクダイとマダラテンジクダイの記録. Nature of Kagoshima, 47: 41–45.
- 松尾 怜・國島大河. 2021. 和歌山県串本町から採集された北限記録のミナミフエダイ *Lutjanus ehrenbergii*. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 6: 38–40.
- 御前 洋. 1990a. 本州初記録の魚, シボリの紹介. 南紀生物, 32: 49.
- 御前 洋. 1990b. シボリダマシ (テンジクダイ科) の収拾例. 南紀生物, 32: 55.
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 10: 1–80.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 20: 1–250.
- 本村浩之. 2025. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 30. [URL](https://www.nishimura.co.jp/fish/)
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 12: 1–125.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo, 52: 205–361.
- 中村亮太・渡辺隆太・大井真人・本村浩之. 2024. 宮崎県南部から得られた九州沿岸初記録を含む南方系魚類 7 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 49: 61–67.
- 大西 遼. 2024. 串本海中公園センターで記録された魚類. マリンパビリオン, 15: 1–24.
- 大西 遼・吉田朋弘. 2024. 和歌山県串本町から得られた北限記録のヤツトゲテンジクダイ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 40: 62–65.
- 堺 響輝・國島大河. 2023. 和歌山県串本町から得られた本州初記録のクラカケエビス. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 35: 16–19.
- Senou, H., K. Matsuura and G. Shinohara. 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. Memoirs of the National Science Museum, 41: 389–542.
- Senou, H., G. Shinohara, K. Matsuura, K. Furuse, S. Kato and T. Kikuchi. 2002. Fishes of Hachijo-jima Island, Izu Islands Group, Tokyo, Japan. Memoirs of the National Museum of Nature and Science, 38: 195–237.
- 橘 皆希・岡村恭平・松永 翼・遠藤広光. 2024. 高知県から得られたテンジクダイ科魚類 10 種の記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 48: 55–63.
- 田中翔大・下光利明・瀬能 宏・宮崎佑介. 2020. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相: 144 種の追加記録. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 49: 107–118.
- Tose, K., T. Hirata, Y. Kotera, M. Kanda and Y. Nakamura. 2017. Occurrence and reproduction of tropical fishes in ocean warming hotspots of Japanese temperate reefs. Environmental Biology of Fishes, doi: 10.1007/s10641-017-0590-5 (Mar. 2017), 100: 617–630 (June 2017).
- 渡井幹雄・宮崎佑介・村瀬敦宣・瀬能 宏. 2009. 慶良間諸島渡嘉敷島久湾の魚類相. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 38: 119–132.
- 山本典暎・古見きゅう. 2005. 本州最南端 南紀串本 海の生き物ウォッチングガイド. 株式会社ビーシーズ, 東京. 264 pp.
- 吉田朋弘. 2013. アカフジテンジクダイ, pp. 112–113. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 吉田朋弘. 2014a. アカフジテンジクダイ, pp. 188–189. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 吉田朋弘. 2014b. マトシボリ, p. 200. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 吉田朋弘. 2018. アカフジテンジクダイ, p. 113. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・横須賀市自然・人文博物館, 横須賀・神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原・国立科学博物館, つくば.
- 吉田朋弘・萩原清司・本村浩之. 2020. 和歌山県から得られたテンジクダイ科魚類の稀種シキナミヤツトゲテンジクダイ *Neamia notula* の北限記録. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.19-047 (Jan. 2020), 67: 107–111 (Apr. 2020).
- Yoshida, T., S. Harazaki and H. Motomura. 2010. Apogonid fishes (Teleostei: Perciformes) of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan, pp. 27–64. In Motomura, H. and K. Matsuura (eds.) Fishes of Yaku-shima Island. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- 吉郷英範. 2021. 庄原市立比和自然科学博物館収蔵のテンジクダイ科魚類. 比和科学博物館研究報告, 63: 1–41, pls. 1–6.